

7 水産業技術改良普及

(1) 水産業技術改良普及

沿岸漁業担い手確保推進・育成事業

深谷昭登司・菅沼光則・細川 穹

キーワード；巡回指導，漁業者育成

目 的

次代の漁業の担い手である漁村青少年を対象に新しい技術と知識を持った人づくりを行うための学習，交流活動を実施する。

方 法

1 巡回指導

(1) のり養殖指導

各地区ののり生産安定対策協議会で，今漁期の養殖方針について，品質向上を重点に，漁場行使，養殖管理のポイント等を助言した。また，各地区の講習会で，採苗・育成生産管理，製品加工の技術や経営改善等について指導するとともに，地区研究会，海苔協議会研究部会等グループ活動への助言等を行った。

(2) 栽培漁業指導

クルマエビの中間育成・放流を指導し，また研究グループの行う試験研究活動にも助言した。

(3) その他

各種グループの会議等へ出席し助言した。

2 沿岸漁業担い手確保・育成

(1) 助言指導

県及び各地区沿岸漁業担い手確保推進会議，また各地区の青年漁業者活動協議会に参加し，その活動及び後継者育成について助言した。

各地区漁村女性活動，漁村高齢者活動，漁業士活動等について助言した。

県及び各地区漁協青年部連絡協議会の活動について助言した。

(2) 学習会

専門家を招き，漁村青壮年グループを対象に学習会を開催した。(表1)

(3) 少年水産教室

漁業後継者確保のため，水産に関する基礎知識について中学校生徒を対象に，三河地区，知多地区の2地区で

集団学習を行った。(表2)

(4) 実績発表大会

漁村青壮年婦人グループの相互交流と知識の普及を図るため，各グループの研究活動について実績発表大会を開催した。(表3)

(5) 漁業士育成

漁業士活動を促進するため，漁業士育成，研修会，視察交流等を実施した。(表4)

表1 学 習 会

名 称	研修（学習・講習）内容	開催場所	開催時期	参加人員	講師 所属及び氏名
藻類貝類養殖 技術修練会	平成11年度ノリ流通の概要と今後の見通し	一色町公 民館	平成12年 7月11日	87名	愛知県漁連海苔流通センター 加藤 英記
	アサリ資源の増産に向けて				愛知県水産試験場漁業生産研究所 黒田 伸郎
	今年度の漁期にのぞんで				愛知県水産試験場漁業生産研究所 伏屋 満
	熊本県のノリ養殖の取り組みと現状				熊本県水産研究センター 濱竹 芳久
グループリー ダー研修会	三河湾における浅場造成手法について	名古屋市 水産会館	平成12年 6月10日	25名	愛知県水産試験場 鈴木 輝明

表2 少年水産教室

(本 場)

名称	研修（学習・講習）	開催場所	開催時期	参加人員	講師 所属及び氏名
少年 水産 教室	ロープの結び方	蒲郡市 水試本場	平成12年 8月 8日 ～8月 9日	11名	指導漁業士 鈴木 清、稲吉光男 指導漁業士 深谷武義、牧野吉宏 水産試験場 相談員、研修員 事務所 普及員
	タモ網作り				三谷水産高校 栽培漁業科長 小林清和
	ノリ養殖について				蒲郡市消防署 職員 4名
	水産講話				三谷水産高校 教官 水産試験場 専技、相談員 事務所 普及員
	救急法・人工呼吸				
	水産高校見学 カッター漕艇実習				

(漁業生産研究所)

名称	研修（学習・講習）	開催場所	開催時期	参加人員	講師 所属及び氏名
少年 水産 教室	伊勢湾産魚の同定・調理	南知多町 水試	平成12年 8月 1日 ～8月 2日	14名	水産試験場 専技、職員 事務所 普及員
	ロープの結び方				指導漁業士 吉川 光春、相川喜一 水産試験場 専技、職員、相談員 事務所 普及員
	タモ網作り				知多南部消防組合職員 2名
	救急法				
	魚の標本作成				水産試験場 専技、職員、船員

表3 活動実績発表大会

名称	発表課題及び発表者	開催場所	開催時期	参加人員	審査員 所属及び氏名
第47回愛知の水産研究発表大会	1. 生産期に適したのり選び 内海漁協のり研究部 内田吉一	愛知県漁連 海苔流通 センター	平成12年 4月25日	300名	水産課 吉見 正文 農業経営課 伊藤 紀美子 水産試験場 藤崎 洸右 " 瀬川 直治 " 細川 穹 県漁連 近藤 建二 県信漁連 井上 俊 指導漁業士 吉川 光春 " 牧 与司雄 " 金田 樹人
	2. 衣(ころも印)にかけて 一味検査への取り組み— 衣崎漁協のり研究会 柴田義和				
	3. 西浦の明日を見つめて・II —私達の漁村活性化ビジョン— 西浦漁協若衆会 吉見次也				
	4. 品質の高いのり生産をささえる私達の活動 野間漁協婦人部 山田いつ代				
	5. ミルクイがわく豊かな海を目指して —ミルクイ中間育成への取り組み— 日間賀島漁協潜水組合青年部 宮地政満				
	6. イシガレイの再放流による海域移動調査に ついて 幡豆漁協青年部 尾崎彰一				

表4 漁業士育成

名称	項目・研究課題等	開催場所	開催時期	参加漁業士	講師 所属及び氏名
漁業士育成	愛知の水産物ライトアップ	名古屋市	平成12年 8月11日	1名	親子料理教室(61名)
	都市・漁村青年交流促進 マリン・カレッジ	田原町	平成12年 8月19日	2名	椋山女学園大学と現地での交流会 を県漁青連の協力を得て実施
	ブロック研修 他県漁業士との情報交換、連携	浜松市	平成12年 9月 8日 ～9月 9日	3名	水産庁、関係県
	農山漁村女性の日推進大会	名古屋市	平成13年 3月16日	1名	
	漁業士研修会	名古屋市 港湾会館	平成13年 3月24日	18名	水産試験場漁業生産研究所 阿知波主研、白木谷技師
	漁業経営者国内外研修報告	名古屋市 港湾会館	平成13年 3月24日	18名	青年漁業士 味沢漁協 真保豊晃

ノリ養殖指導

深谷昭登司・菅沼光則・細川 穹

キーワード；ノリ養殖，採苗，育苗，秋芽網生産，冷蔵網生産

目 的

ノリ養殖は，気象・海況に大きく左右され，迅速な対応が要求される。そこで養殖管理に必要な情報を的確に把握し，生産性の高いノリ養殖を行うための適切な情報を提供する。

方 法

ノリ養殖業者へ地区別の養殖状況，気象・海況及び他県の生産・流通状況等の情報を提供するため，平成12年9月28日から平成13年2月28日にかけて週1度「ノリ養殖情報」を発行した。

養殖経過概要

平成12年度の本県のノリ養殖は，経営体数528戸（前年度より8戸増），生産枚数5億枚（前年比73%），生産金額64億円（前年比96%），平均単価12.80円/枚（前年比131%）となり，生産枚数では過去5ヵ年平均の69%，生産金額では87%となった。1経営体当たりでは，平年比で生産枚数が93%，生産金額が118%であった。

漁期の特徴は，3年続きの高気温・高水温の影響から採苗・育苗の長期化，10月中旬頃からの赤潮状態の継続，黒潮の蛇行に起因した高潮位によるスミノリ症の発生，連日の強風による出漁不足等により生産枚数は伸びなかったが，全国的には不作であったため製品の価格は安定していた。

1 採 苗

(1) 知多地区

東部地区の陸上採苗は9月16日に師崎漁協で開始され，その後，22日には大井漁協，24日には日間賀島漁協，25日には篠島漁協，26日には片名・美浜町漁協，28日には豊丘漁協で開始された。一部では，水車内の水温低下に悩む経営体も見受けられたものの，概ね順調に行われ，10月1日の日間賀島・篠島漁協をもって終了した。なお，芽付けは100倍1視野で10～40個程と平年並であった。

西部地区の陸上採苗は9月16日に大野漁協で開始され，17日には鬼崎漁協，18日には小鈴谷漁協，21日には野間漁協，25日には内海，豊浜漁協で開始された。大

野・鬼崎漁協では，例年に比べると，殻胞子の放出が1日遅れる状況が見受けられた。27日以降は東部地区と同様に水温低下に悩む経営体も見受けられた。海上採苗は大野漁協で10月6日から8日に2経営体が行った。芽付けは100倍1視野で15～50個程と多い傾向にあった。

(2) 三河地区

西三河地区の陸上採苗は9月9日から27日にかけて行われた。採苗を早期に実施した者は，9月11日から12日にかけての東海豪雨の影響で，海水比重の低下や濁りのため，海水の確保に苦勞した。水温に関しては，寒気の弱かった18日以前の採苗は適水温維持に苦慮したが，18日以降は順調であった。また，ノリ胞子の放出ピークを合わせられず，採苗に日数を要した者も一部で見られた。芽付け数は，高水温傾向の影響を受け，100倍1視野当たり15～30個とやや多めであった。野外採苗は10月5日から13日まで行われた。漁場水温の高かった10日以前の採苗網は冷蔵入庫された。

東三河地区では海上採苗が中心で（70%），3年連続して9月以降の高水温の影響を大きく受けた。採苗はほぼ前年と同様，陸上採苗は9月18日から20日に向け始まり，胞子放出が順調で，芽付けは100倍1視野30～40個程で，10月2日ではほぼ終了した。海上採苗は，9月30日から10月6日に向け始まり，高水温（24℃以上）で胞子放出が遅れ苦勞した人もいたが，12日ではほぼ予定の網数を採苗できた。多くの人が芽付けは100倍1視野20～30個で濃い網が多かった。また，採苗網の入庫をした人はわずかで，大半の人が直接張り込んだ。

2 育 苗

(1) 知多地区

東部地区では9月7日に，平成12年度知多東部ノリ安定対策部会が開催され，採苗期の張り込み日は，昨年度と同日の9月27日以降と決定された。しかし，今年度も高水温の傾向が続いていることから，各漁協が27日以降の地先の海況を考慮して行うことが確認された。各地先の平均水温は，9月26日では24.0～25.0℃であった。また，10月3日では22.9～24.0℃，10日では21.5～22.8℃となった。このような海況の中，10月5日に豊丘漁協で張り込みが開始された。その後，6日には美浜町漁協，8

日には大井・片名漁協、10日には師崎・日間賀島・篠島漁協で開始された。10月中旬頃から渦鞭毛藻類のプロロセントラムが確認され、11月20日頃まで赤潮状態が継続した。この赤潮によって南部の漁場では栄養塩量が少ない状態が続き、一部では葉色がかなり退色した。また、同時期に南部の漁場を中心としてアイゴによる食害が発生し、ノリ網を避難入庫したり、張り込みを見合わせる漁協もあった。冷蔵網の入庫は10月24日に豊丘漁協で開始され、11月14日の美浜町漁協をもって終了した。

西部地区では、平成12年度第2回知多西部ノリ安定対策部会が10月4日に開催され、陸上採苗網の張り込み時期について討議された結果、野間漁協以北の漁協については10月12日以降、内海・豊浜漁協については地先海況の条件を考慮して行うことが決定された。12日には大野・鬼崎・内海漁協で張り込みが開始され、13日には豊浜漁協、15日からは小鈴谷・野間漁協で開始された。育苗前期から中期にかけては順調な育苗が行われたが、南部漁場ではスケルトネマの影響により栄養塩量の減少も確認された。育苗後期から秋芽網生産初期にかけては、北部漁場を中心に大規模な芽切れが発生した。

(2) 三河地区

西三河地区では安定対策協議会の取り決めにより、10月11日に吉良地区から網の張り込みが開始された。今漁期は、渦鞭毛藻類のプロロセントラムによる赤潮が長期に三河湾全域に及んだため問題となった。特に、濃密な赤潮に覆われた西尾地区では、他地区より網の張り込みを遅らせ10月22日からの開始となった。病障害は、しろぐされ症が多少見られる程度であった。栄養塩は、赤潮のため一時かなり低下したものの、周期的な降雨による補給で問題には至らなかった。冷蔵入庫は10月31日から11月24日の間に行われ、盛期は11月4日から9日であった。育苗開始を遅らせた西尾地区では11月14日が盛期であった。全般的には、十分な種網を確保することができた。

東三河地区では、採苗期は10月3日頃から陸上採苗網を張り出し、海上採苗網も順次展開された。育苗当初から水温23~24℃台（日中時水温25℃）で、温暖な日和が続いた。そのため、付着藻類（アクナンテス）等の汚れやアオノリが極端に多かった。また、渦鞭毛藻のプロロセントラムによる赤潮が発生し、10月10日以降には、高めに推移していた潮位が予想潮位に近づいたため干出過多となり、海水散布等で対処したが、多くは芽落ちや芽傷みを起こした。冷蔵入庫は、10月22日から始まったが、5mm程度の小芽網が多いため進まなかった。入庫直前の10月30日の強い南東風と福江湾の赤潮等の影響により芽落ちがあり、入庫が不可能になった。11月2日から浮き

流しに単張りしながら育苗を継続し、11月15日から20日にかけて冷蔵入庫したが、必要量の種網は確保できなかった。

3 秋芽網生産

(1) 知多地区

東部地区では11月21日以降の栄養塩は徐々に回復し、葉色も戻った。また、アイゴによる食害も一部の漁場を除いて、水温の低下に伴い徐々に終息した。しかし、11月27日以降ボラ、クロダイによる食害が師崎・片名・日間賀島・篠島漁協で発生した。初摘採は11月15日から順次行われたが、これらの影響によって生産枚数が伸びず、12月1日に行われた第1回共販への知多地区からの出荷枚数は、師崎漁協の約20万枚、大井漁協（片名・豊丘を含む）の154万枚、美浜町漁協42万枚の合計216万枚に留まった。

西部地区では育苗後期から発生した芽切れは、大野・鬼崎・小鈴谷・野間（上野間地区）漁協の支柱柵漁場で発生した。大野・鬼崎・小鈴谷漁協では11月11日から、野間漁協では11月16日から発生した。被害の発生したノリ芽を検鏡した結果、既知の病障害は認められず、原因は不明であった。この芽切れのため、第1回共販への知多西部からの出荷は、鬼崎漁協の浮き流し漁場の製品を中心とした276万枚に留まった。

知多地区全体として、第3回共販までの出荷枚数は前年比116%、平年比70%の約7,000万枚となり、出荷金額は前年比116%、平年比75%の約10億3千万枚となった。平均単価は前年比100%、平年比107%の14.7円/枚となった。

(2) 三河地区

西三河地区での単張りは11月上旬より始まった。11月5日から20日頃にかけて、支柱柵全域で食害と思われる葉切れが発生し、摘採開始が遅れた。浮き流しは、平穏な日が続き順調に生長が進んだが、摘採間近の強風で芽が流れ、摘採開始がやや遅れた。初摘採は、一色・吉田地区が最も早く、11月17日の浮き流しからであった。強風以降は順調な水温低下が見られ、浮・支柱とも良好な生長で摘採が進んだ。撤去は、12月7日の安定対策協議会により単協判断とされたが、あかぐされ病が拡大傾向にあったことから、12月19日には各地区とも撤去が終了した。秋芽網生産期の養殖結果は、1経営体当たりの生産枚数は平年比163%の約28万枚、生産金額は平年比約166%の約400万円、平均単価は平年比104%の14.0円/枚とやや好漁であった。

東三河地区では育苗不調から種網の確保が大幅に遅れ、冷蔵入庫網の見込みがないまま、11月18日からほぼ

全域で秋芽網が張り込まれた。渥美地区では11月25日より浮き流して摘採が始まったが、生産は網当たり200～300枚で伸び悩みがあり、赤潮で葉色がやや浅く、クモリとチヂミ系やアオ混じりが多く見られた。病害は、あかぐされ病が摘採遅れの網等で拡大し、品質、生産量に影響した。支柱は11月下旬でも育苗遅れの種網が多くあり、単張りも大幅に遅れ11月27日で福江湾外が70%、福江湾内が30%程度の張り込みであった。摘採は12月5日から病害もなく、色・艶のよいものが網当たり200枚程度で始まった。蒲郡地区では、11月20日の大雨で河川ゴミが多く除去に手間取ったが、11月28日から支柱で網当たり200枚程度の摘採が始まった。張り込み網は芽落ちで不良網が多くあり、網の交換作業等の管理に多大な労力を費やした。浮き流しは、12月初旬からカモや魚の食害で生産対象にならず、摘採は12月25日から手入れ摘採が始まったものの生産量の減少は大きかった。秋芽網生産期の養殖結果は、地区1経営体当たりの生産枚数は平年比48%の約7万枚、生産金額は平年比約52%の約83万円、平均単価は平年比115%の11.1円/枚であり、不作であった。

4 冷蔵網生産

(1) 知多地区

東部地区では冷蔵網への張り替えは、美浜町漁協が最も早く、12月12日から開始された。また、他の漁協でも年内に順次張り替えが行われたが、年明けから作業が本格化した師崎・日間賀島・篠島漁協は2月上旬までずれ込んだ。初摘採は美浜町漁協で12月24日から、他の漁協でも順次年明け後から行われた。摘採当初は伸びが悪く、生産枚数が伸び悩んだ漁協が多かったうえ、片名・大井・美浜町漁協ではカモによる食害の被害も受けた。さらに1月下旬よりリゾソレニア、タラシオシラなどの植物プランクトンが増殖し、栄養塩量の減少を招き、製品の色落ちをもたらした。この色落ちは、南部漁場から発生し、2月には東部全域に拡大した。そのため、2月中旬より、片名・大井・豊丘漁協が、同下旬より師崎・日間賀島・篠島漁協が生産を休止した。栄養塩は3月に入っても回復せず、大部分の漁協が生産休止のまま、終漁を迎えた。

西部地区では、12月中旬から徐々にあかぐされ病が広がり始め、冷蔵網への張り替えが行われていった。全体での一斉撤去は行わず、隣接漁協と協議のうえ、各漁協の状況に合わせた張り替えが行われた。育苗が不調であった小鈴谷漁協では12月上旬から再育苗を兼ねた冷蔵網の出庫が一部で行われ、12月30日までに秋芽網を撤去することが決められた。内海漁協では12月18日から順次張

り替えを行い、12月27日までに秋芽網を撤去することが決められた。野間漁協では12月21日までに秋芽網を撤去した後、24日以降冷蔵網を張り込むことが決められた。鬼崎漁協では、浮き流し漁場については12月25日以降に冷蔵網を張り込み、12月30日までに秋芽網を撤去し、支柱欄漁場については1月2日以降に冷蔵網を張り込み、1月8日までに秋芽網を撤去することが決められた。初摘採は、ほとんどの漁協が1月7日から行った。これは年未年始に荒天日が続く、出漁が制限されたことによる。1月上旬は荒天日が多くなり、葉体の流失、養殖施設の破損等の被害に加え、出漁日数が限られたため、張り替えた冷蔵網の管理が不十分になり、あかぐされ病や橙胞病が散見された。また、1月下旬には鬼崎漁協で軽度のスミノリ症が発生した。しかし、これらの病害は拡大することなく、大きな被害にはつながらなかった。2月中旬から南部漁場で葉色が退色し始め、下旬には北部漁場でも退色が始まった。

(2) 三河地区

西三河地区の冷蔵網の出庫は12月17日（一色地区）、18日（吉田・吉良地区）、20日（栄生地区）、21日（味沢・衣崎地区）、22日（西尾地区）から始まった。初摘採は12月30日の吉田地区から始まったが、風の強い日が続く摘採が本格化したのは、1月5日頃からであった。今漁期は病害の発生が大きな問題となった。西尾・栄生・味沢・一色地区では、育苗期のしろぐされ症、黒潮の蛇行に起因した高潮位、連日の強風による出漁不足等が重なり、1月9日の干出時における大雨により、漁場においてスミノリ症が発生し大打撃を受けた。これは干出を与えることにより急速に回復したが、その後の生産量に影響を与えた。また、一色・衣崎地区を中心として、低張り養殖となった地区では、1月中旬頃までにあかぐされ病が拡大し問題となった。他の病害は、橙胞病、付着細菌が例年に比べ多く見られたが、大きな問題には至らなかった。漁期を通した生産量は、病障害や寒波等による伸び悩みにより大きく落ち込んだ。2月初め頃から色落ちも見られ始めたが、全国生産量の落ち込みによる単価の高騰のため生産金額はまずまずであった。

東三河地区では、種網不足によって冷蔵網への張り替えを行ったのは一部の人だけで、大半の人は秋芽網での継続生産を余儀なくされた。秋芽網生産期にみられたあかぐされ病は適正干出等の病害対策で沈静化し、年明け後の生産には影響を及ぼさなかった。地区全域の生産状況は、年明け後の連日の強風で摘採を見合わせ日が続く、1月中旬までの生産はほとんどなかった。渥美地区では、生産が順調になったのは1月20日以降の浮き流しで、約

1ヵ月ぶりの摘採再開からである。寒気による冷え込みが強く、水温も1月中旬からは5℃を下回る最低水温期となり、葉体の伸びが鈍化して葉色も浅く、生産は網あたり500~700枚程度であった。1月末以降、福江湾内外漁場とも生産が続いたが、珪藻類の増加と栄養塩の減少等で、伸びが極端に不良になり、クロノリからアオノリ

生産に変わっていった。蒲郡地区では、地先の支柱で伸び・色の状況を見ながら生産したが、浮き流しでは1月下旬から色落ちと極端な伸び悩み等で生産量は大幅に減少した。3月5日から、浮き流しの網整理が始まり、支柱欄も3月中旬に終漁を迎えた。

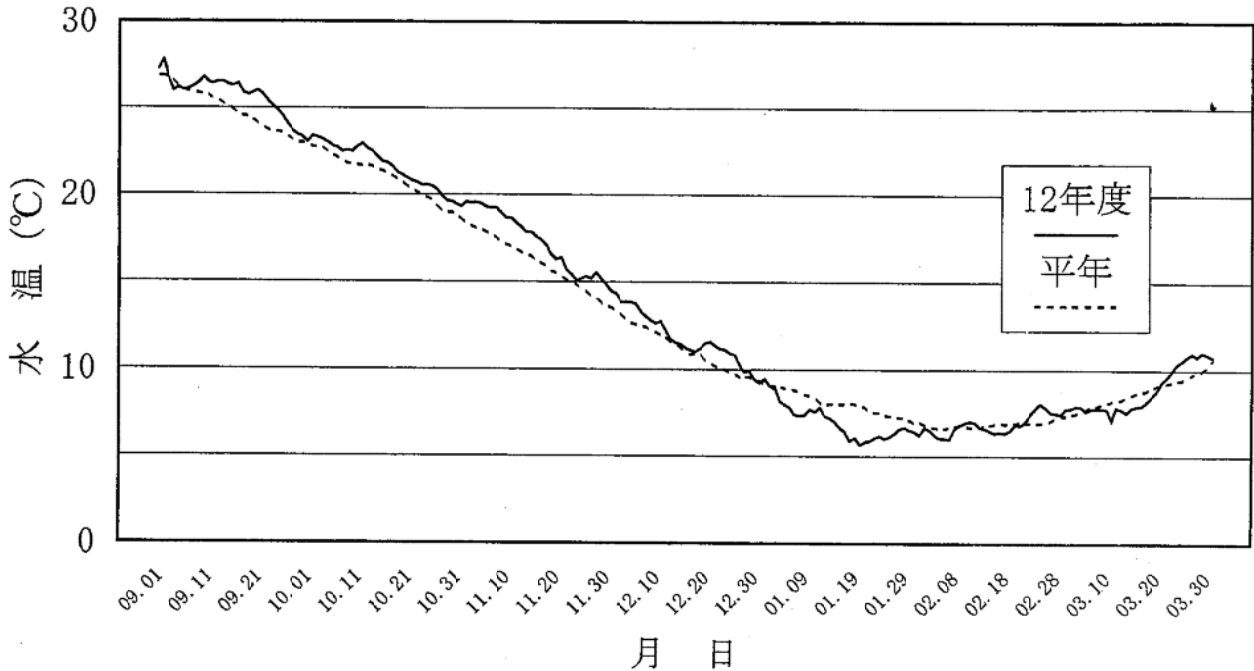


図1 平成12年度水温経過 (水試ブイ平均)

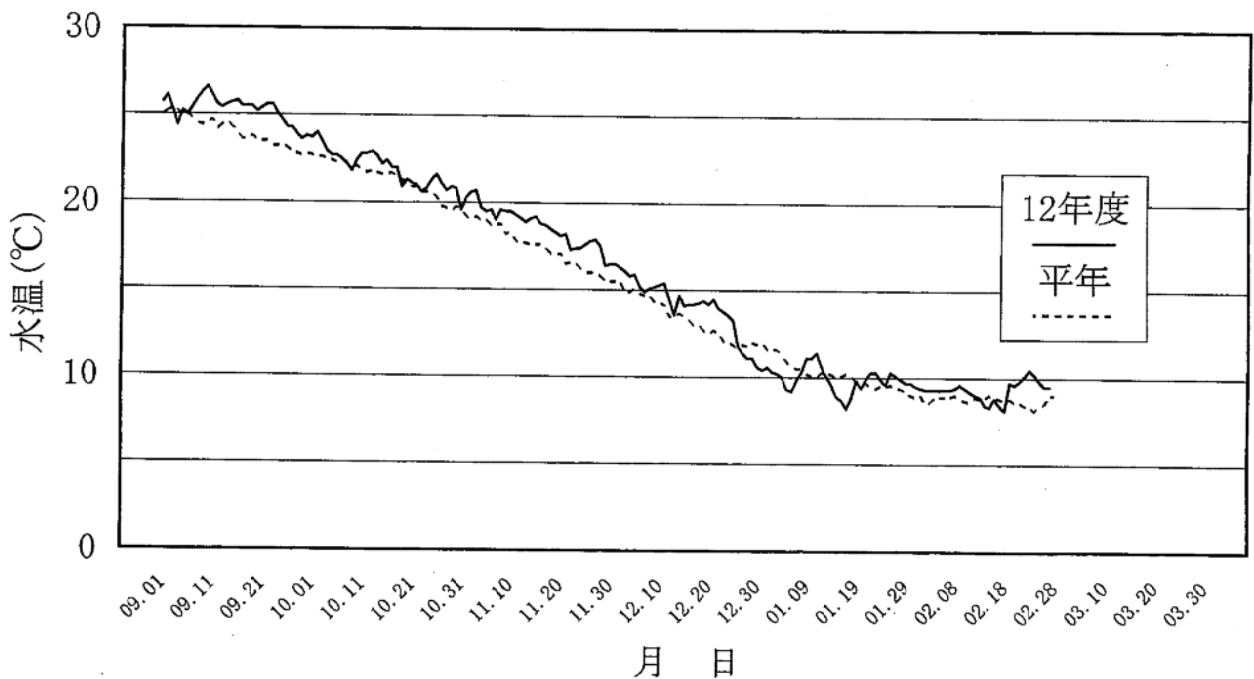


図2 平成12年度水温経過 (漁業生産研究所)

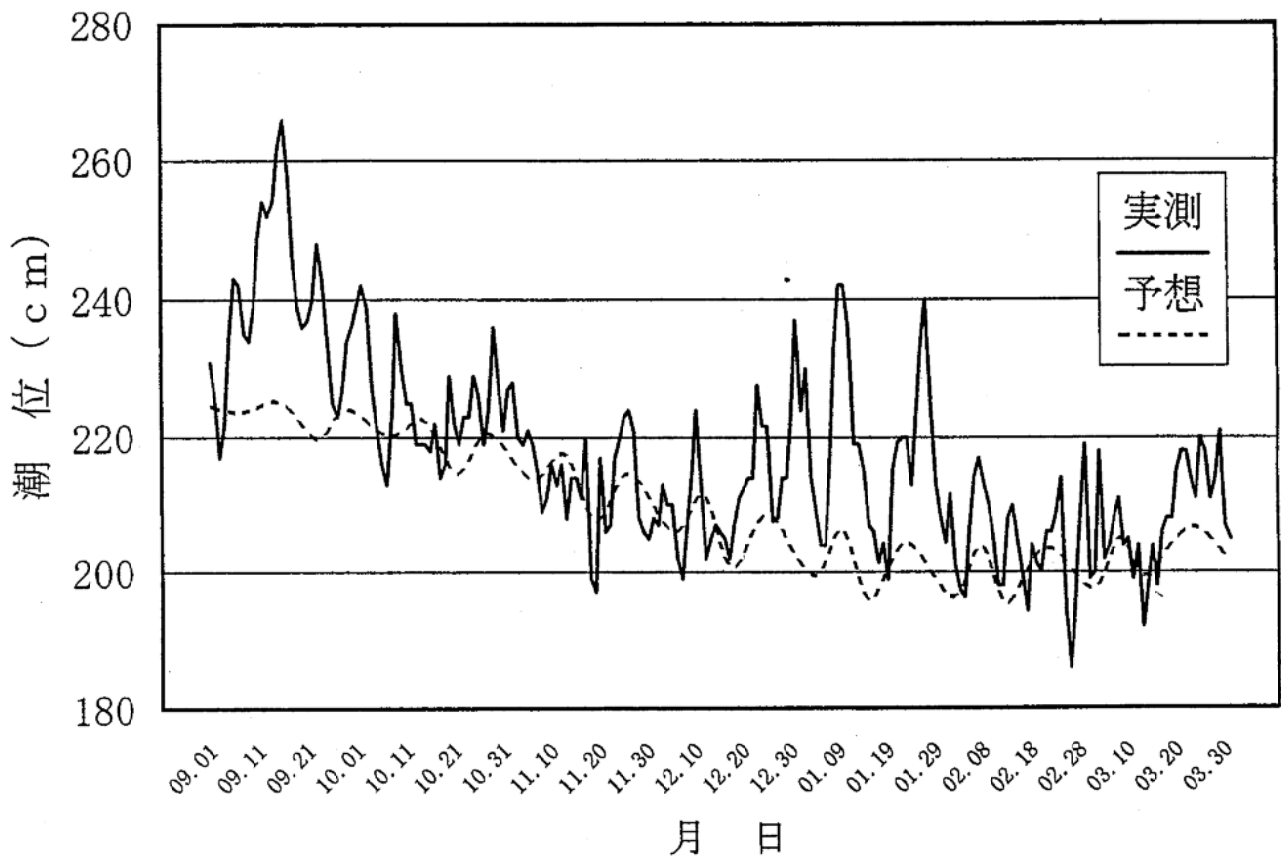


図3 平成12年度潮位経過 (名古屋港日平均)

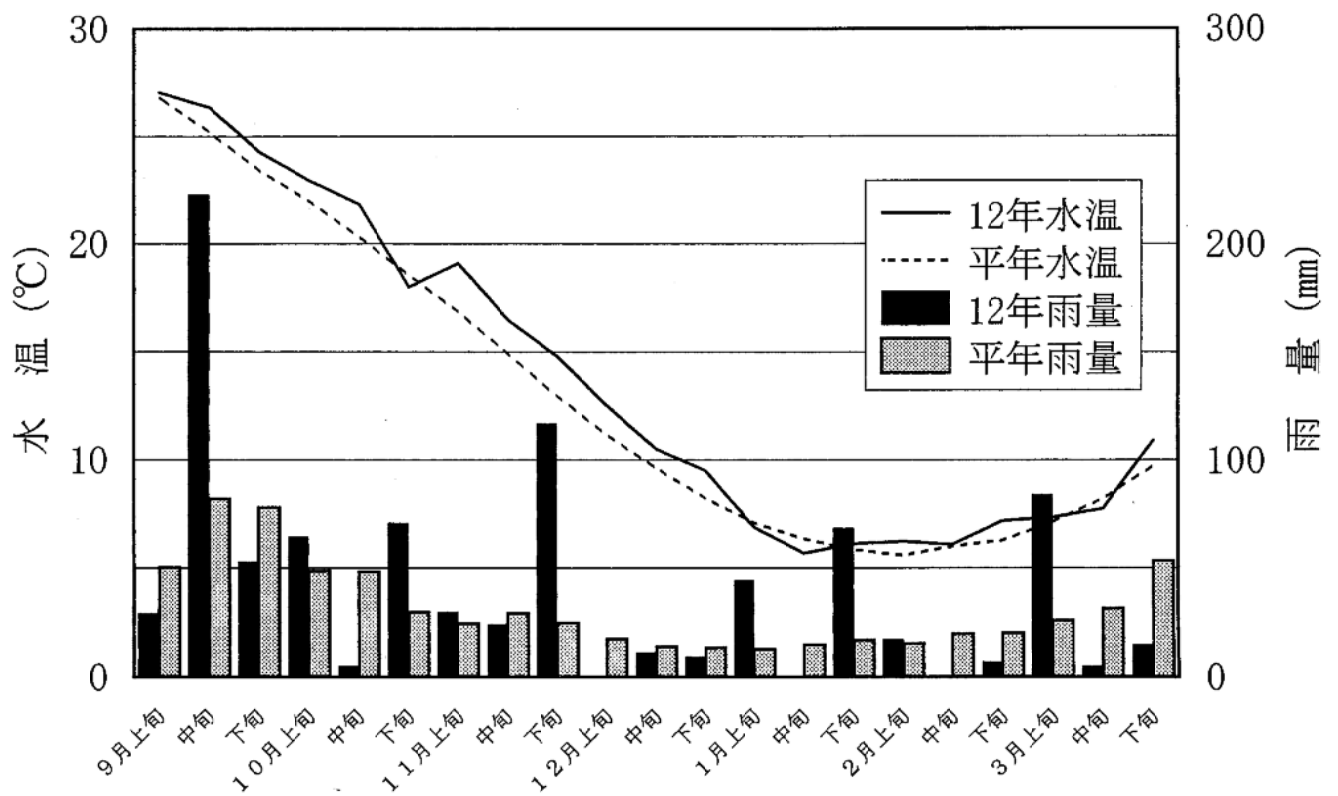


図4 平成12年度水試地先水温・降水量の変動

(2) ノリ養殖経営改善対策事業

菅沼光則・伏屋 満・細川 穹
深谷昭登司・植村宗彦

キーワード；ノリ養殖，経営調査，高度化モデル，先進地視察，生産力調査

目 的

近年のノリ養殖は，需給構造の変化による価格の低迷と設備投資，償却費の増大等により収益性が低下し，経営体数の減少と生産力の伸び悩みが続いている。

このため，知多東浜地区(大井漁協)，西三河地区(衣崎漁協)について，①経営形態の検討(先進地経営モデル調査，経営基礎数値の追加・修正，地域対応型経営高度化モデル作成等)，②生産管理技術の検討(漁場生産力の評価)を行い，地域の特性を踏まえたノリ養殖経営改善のあり方を検討するための資料とする。

事業内容

1 経営形態の検討

(1) 先進地経営モデル調査

宮城県七ヶ浜漁協葛蒲田浜支所の協業経営，香川県四海漁協の大規模経営について，経営の概況，経営の成果・問題点等の聞き取り調査を行った。

(2) 経営基礎数値の追加・修正

大井漁協21経営体について生産，財務，労働の各項目について調査を実施した。また，平成8年度に取りまとめた経営基礎調査数値の追加・修正を行うとともに，経営課題の再整理と経営高度化モデルに使用した基礎数値について検討を加えた。

(3) 地域対応型経営高度化モデルの作成

衣崎地区で，平成10年度に作成した経営高度化モデルに採用した生産に関する基礎数値(全経営体平均値)を，生産性の上位グループあるいは夫婦型経営での生産性上位グループの数値に置き換えた経営高度化モデルを作成した。

2 生産管理技術の検討

衣崎漁協ノリ浮流し漁場および味沢漁協ノリ浮流し漁場において，石膏ボールを用いた流動量調査を行った。また，各定点におけるD I N，葉体窒素含有量等を測定し，漁場生産力の把握，漁場管理技術の検討を行った。

なお，本事業の詳細については，平成12年度のノリ養殖経営改善対策事業結果報告書に記載した。

(3) 漁業就業者確保対策事業

深谷昭登司・菅沼光則・細川 穹

キーワード；漁業就業，確保育成センター，漁業PR，漁業技術研修

目 的

近年，漁業者の減少や高齢化の進行により漁業環境が厳しくなっており，就業に関する情報の収集及び交換，漁業のPR，漁業環境の改善，漁業技術の研修等を行い，漁業就業者の育成確保を図る。

方 法

水産試験場内に愛知県漁業就業者確保センターを設置し，漁業就業者の需給情報を収集・整理するとともに，全国規模で需給情報の交換を行う。就業者確保育成のため各種支援事業を行った。

実施状況

1 漁業就業者需給情報交換

就職希望35名から漁業就業に関する問い合わせがあり，対応した。

2 PR活動

(1) 普及員の協力を得て，漁業PR用下敷き「愛知の漁業」を作成配布した。

(2) 県立三谷水産高校生，南知多町内小学校教諭（5名）及び中学校教諭（8名）を対象に漁業勧誘活動を行った。

(3) 水試本場及び漁業生産研究所に漁民相談員が設置されており，相談に応じている。

各項目結果について，平成12年度水産業改良普及事業実績報告書で詳細に報告した。

(4) 魚類防疫対策推進指導

魚類防疫推進事業，養殖生産物安全対策

(内水面漁業研究所) 山田 智・岩田友三
 (三河一宮指導所・弥富指導所) 荒川哲也・水野正之
 (漁業生産研究所) 阿知波英明・落合真哉

キーワード；養殖，防疫，魚病

目 的

ウナギ，アユ，マス類等の本県の主要な内水面養殖業全般及び本県の栽培漁業の中核であるアユ，クルマエビの放流用種苗において，効果的な防疫体制を確立する必要がある。また，養殖魚の食品としての安全性を確保するため，医薬品及びワクチン使用の適正化を図る。

また，放流用種苗について，クルマエビのPAV（PCR法）及びアユの冷水病についてモニター検査を行った。効果的な防疫対策を行うため，中央防疫対策会議に出席するとともに県内対策会議及び魚類防疫講習会を開催した。疾病検査関連機器整備として弥富指導所にクリーンベンチを設置した。

事業内容

1 魚類防疫推進事業

ウナギ，アユ，マス類及びキンギョ等観賞魚について周年疾病検査を行うとともに適宜巡回指導を行った。

2 養殖生産物安全対策

水産用医薬品の適正使用を指導するため，県内のウナギ，アユ，マス類養殖業者を対象に医薬品説明会を開催し，簡易法による医薬品残留検査を実施した。また，今年度水産用ワクチンの使用はなかった。

事業実施結果

1 魚類防疫推進事業

事 項	内 容	実施時期	担当機関
疾病検査	疾病検査		
	ウナギ	平成12年4月～平成13年3月	内水面漁業研究所
	アユ	〃	〃
	マス類	〃	三河一宮指導所
	キンギョ等観賞魚	〃	弥富指導所
	放流用アユ	平成13年1～3月	内水面漁業研究所
	放流用クルマエビ	平成12年5～8月	漁業生産研究所
	巡回指導		
ウナギ	平成12年6～12月	内水面漁業研究所	
アユ	平成12年6～7月	〃	
	平成13年1～3月		
	マス類	平成12年4月～平成13年3月	三河一宮指導所
	キンギョ等観賞魚	〃	弥富指導所
防疫対策会議	中央防疫対策会議	平成12年10月30日 平成13年3月6日	—
	県魚類防疫対策会議	平成12年8月22日	水産課
魚種別防疫検討会	ウナギ	平成13年1月25日	内水面漁業研究所
	アユ	平成13年3月29日	〃
	マス類	平成12年12月20日	三河一宮指導所
	キンギョ等観賞魚	平成12年10月19日	弥富指導所
	放流用種苗	平成12年5月17日	水産課
水産動物防疫講習会	ウナギ	平成12年5～6月	内水面漁業研究所
	アユ	平成13年1月25日	内水面漁業研究所
	キンギョ等観賞魚	平成13年3月29日 平成12年10月19日	弥富指導所
疾病検査関連機器整備	クリーンベンチ		弥富指導所

2 養殖生産物安全対策

事 項	内 容	実施時期	担当機関
医薬品適正使用指導	説明会 ウナギ アユ マス類	平成12年6～8月 平成13年3月 平成12年12月	内水面漁業研究所 " 三河一宮指導所
医薬品適正使用実態調査	簡易法 ウナギ：6成分，15検体 アユ：5成分，5検体 ニジマス：6成分，10検体 (計30検体，検出0)	平成12年6～8月 平成12年5～9月 "	内水面漁業研究所 " 三河一宮指導所
ワクチン適正使用指導	防疫協議会 使用指導	平成13年3月29日 該当なし	内水面漁業研究所 "